

平成18年度 施策評価シート

総合計画における位置付け等

平成18年11月2日記入

基本目標	ゆとりある みどり豊かな環境共生都市をめざして	施策コード	22330
政策名(章)	第2章 水やみどりの保全と創造に努めます	評価担当部	環境保全部
基本施策名(節名)	第3節 みどりの保全と創造	評価担当課	みどり対策課
施策名	緑化活動の支援	課長名	隅河内 司

1 施策の目的・概要(目的はわかりやすく記入)

市民の手による緑地保全活動や緑化活動を推進するため、(財)みどりの協会と連携し、人材の育成や参加機会の場の提供など市民に対する支援を行い、もって緑化思想の普及・啓発を図り、市民参加型のみどりのまちづくりを進める。
みどりのまちづくり基金の運用収益を含めみどりの協会に助成を行い、市民レベルでの緑化活動等を推進する。
近年、保全緑地の一部での緑地保全活動や市民植樹などの緑化活動に市民ボランティアが積極的に取り組むなど、みどりに係る市民の関心は高まってきており、市では、みどりの協会を通じてみどりのボランティアの育成・支援に取り組んでいる。

2 事業費・人員

年度	平成14年度(決算)	平成17年度(決算)	増減の主な理由
事業費		84,804	(財)みどりの協会への市派遣職員の減員による事業費の減
人件費		0	
市民一人あたりの事業費	162	127	
合計	99,523	84,804	

*人件費は、職員一人あたり H14:839万円、H17:805万円として算定。人口は、61.6万人(H15.4.1現在) 66.7万人(H18.4.1現在)とした。

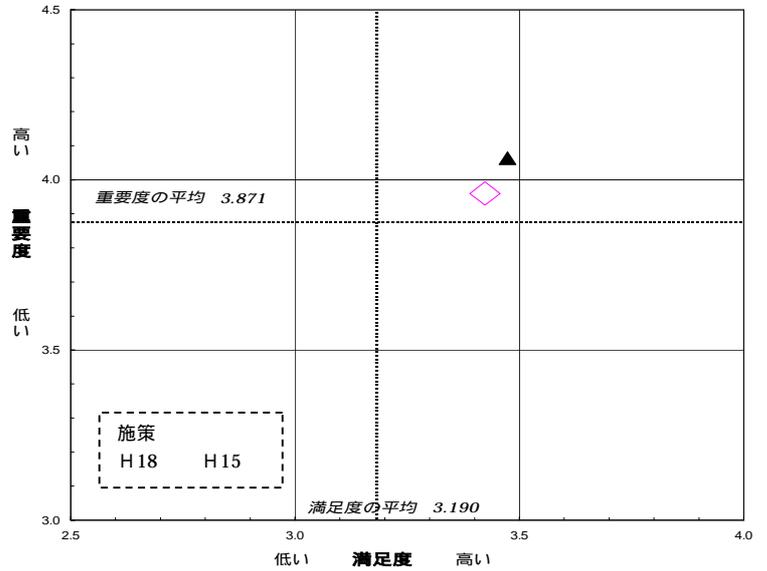
3 成果・活動指標

	指標名	指標の基準値の定義	基準値(単位)	基準年度
指標1	みどりの保全に係るボランティア団体等の会員数(人)	緑化活動団体の会員数 H15:10団体、2,008人	2,008(人) 10(団体)	H15
指標2				
指標3				
指標4				
指標5				

	H17目標値/実績値	中間年度	中間年度の目標値	最終年度	最終年度の目標値	目標値の考え方(根拠)
指標1	2,080	19	2,150人	21	2,220人	H15からの推移を考慮し、各年35名の増加を見込む。
達成率	2,081					
指標2						
達成率	#DIV/0!					
指標3						
達成率	#DIV/0!					
指標4						
達成率	#DIV/0!					
指標5						
達成率	#DIV/0!					

4 市民満足度調査結果(平成18年度実施分)

この施策の満足度は3.423で51施策の中で4番目。
 重要度は3.960で22番目である。
 改善要望度は - 0.1015で30番目である。
 年齢別にみると、満足度は60歳代以上で高く、20、40歳代で低くなっている。
 重要度は40歳代がもっとも低く、他の年代は大きな差はみられない。
 前回調査と比較すると、満足度、重要度とも施策の順位に大きな違いはみられない。
 満足度の順位では、20歳代で前回調査より大幅に下がっている。
 重要度の順位では、70歳以上で前回調査より大幅に下がっている。



5 1次評価(3つの視点から評価を行う)

視点の種類	評価基準・着眼点	評価点	それぞれの視点に対して評価の具体的根拠	
有効性	各事業が果たす施策に対する目標の達成度合いを把握し、効果の高い事業を実施している	④ 2 1	現在、みどりの協会と連携し、自主的な緑地保全に取り組んでいる市民ボランティアは12団体、2,081人であり、各団体ともに定期的な活動を進めるなど市民参加型森づくりへの取組みは成果を上げている。 また、みどりの協会が主催する公園フェアなどのイベントに積極的に参加し、緑化意識の普及・啓発に努めている。 団体数、会員数の推移・H15:10団体(2,008名) H17:12団体(2,081名)	
効率性	最少経費で最大効果が得られる事業構成となっている	④ 2 1	みどりのまちづくり基金の運用収益を活用しつつ、市民ボランティア等と協働して施策を進めるものであり、効率性、有効性が高い事業である。 また、H18年度より「森づくりパートナーシップ事業」として、市民活動団体と協定を結び、パートナーシップの森づくりを開始しているが、機材等の経費を抑えるため、みどりの協会と連携し機材等を共同使用するなど経費の抑制に努めている。	
市民満足度	市民満足度調査により市民ニーズを把握し、市民の立場に立って事業展開している	④ 2 1	市民満足度調査による満足度は51施策中4番目、重要度は22番目であり、どちらの結果も平均値より高くなっている。また、緑地保全・緑化を含めた環境保護に対する市民の関心は高まりをみせ、これらの問題に係わる活動に自発的に取り組む動きが活発化している。	
合計		12	評価結果に基づく区分(4項目の合計点数による) A(12から10点) B(9から5点) C(4点以下)	1次評価 A

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

6 課題と解決策(現状または、評価結果から)

課題	施策の構成事務事業が1つしかなく、施策の成果を示すことが難しい状況となっている。
解決策	平成17年度の構成事務事業は予算上1事業であったが、制度の創設など企画立案の業務が反映されない施策評価になっている。平成19年度の構成事務事業は3事業である。当該施策は市民の環境活動を支援する重要な施策となっており、今後も予算だけでは捉えられない制度の創設を行いながら、事業の展開を図っていく必要がある。

7 2次評価及び意見(1次、2次で評価に相違がある場合など、必要に応じて意見を記入)

構成事務事業が1つしかなく、施策の成果を示すことが難しく、施策体系、構成事務事業の見直しが必要である。	2次評価 A
---	-----------

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

8 3次評価及び意見(評価結果及び課題・解決策について、必要に応じて意見を記入)

緑化活動の支援に結びつく、ボランティア活動の状況など具体的な事業の中から指標を検討し、追加すること。	3次評価
再掲事業か否かの整理は別途行う必要があるが、本施策実現のために構成事務事業の見直しなどを含め、施策自体の見直しを行うこと。	B

* Aは、良好、Bは、事務事業の見直しが必要、Cは、事務事業を統合・廃止の方向

